



能勢町野間中

たに
谷
たに
谷

みつろう
充郎さん
いづこ
津子さん

大阪府の最北端に位置し、古くから「大阪の奥座敷」と呼ばれる自然豊かな山に囲まれた能勢町。その能勢町の東側にあたる東郷地区の野間中で農業を営み、土を愛する自然農法をされながら、東郷地区の町おこしに尽力される谷さんを取材してきました。

土を愛し、土の力を信じる 栽培方法

は安定してきました。」と津子さん。

「代々農業を営んでいたので、農業はもともとやるつもりだった。」と話す谷充郎さん。今は主に津子さん（お母様）と一緒に農作業をしている。MOA 自然農法で野菜を作り始めたのは平成元年。それは「土を愛する会（MOA自然農法能勢町の会）」の発足が関係している。津子さんが「子どもに安全で美味しい物を食べさせたい」との思いから栽培方法を教えてもらひ栽培を始めた。

栽培方法は化学肥料や農薬を使わず、植物性堆肥で土づくりをし、土に植物を育てる力を持たせることで作物が病気にかかりにくく、害虫の数も減るという方法。

「当初5年はまともなお野菜が収穫出来ず、出荷も出来なかつた。でも、年数が経過するごとに土が良くなり、野菜の出来

野菜作りの根本は土

土の生態系が出来てきたら、微生物も適度にいて、粒状も良くて、柔らかく、連作障害なども発生しないとのこと。

「自然農法をしていると、土が元気になります。化学肥料や



土を愛する「MOA自然農法」を 続けて32年

▲毎日のご飯は充郎さんが作られた、薪を燃やして火力にするこの装置とお釜で炊き上げます。

▲以前、谷さんの畑の周辺は、機械等が使えない小さな圃場が多かったので、圃場整備が行われ、機械等が使える大きな圃場にしました。その圃場整備を行った際の竣工記念碑が谷さんの畑の横に建てられています。そして、この文字はお父様が書かれた文字だそう。また、畑の横には「野間中古墳A支部」という古墳もあり、多くの出土品が見つかっています。

作曲や地元合唱団の指導者もされる多彩な充郎さん。「二つのことをしていたら大変。気晴らしが大切ですよ。」バンド研究のベーシストとして、年に2回、川西市の「絹延橋うどん研究所」でライブを開催されてい る。

そして、その「絹延橋うどん研究所」で使われている小麦の

「無農薬で栽培した小麦って
ホントうまい！」

農薬を使わないから、たとえ、病気や害虫がいたとしても、それを狙う天敵もいる。だから、被害はあまり大きくならない。ある特定の病害虫をやつつけたる為に薬をやると、その病害虫も死ぬが、生態系も崩れてしまします。」32年間、MOA自然農法で栽培されてきた谷さん、土を舐めると土の状態が分かるとのこと。

対策交付金を受けていた能勢町付加価値創造協議会の活動を「能勢銀寄」として引き継ぎ、その代表をされている。また、国指定の天然記念物「野間の大けやき」の名称から「NPO法人大けやき」も地域の人と共に立ち上げ、「野間の大けやき」のそばで自家焙煎の屋台カフェ「ありなし珈琲」を開業したりハイキングコース「ありなしの

「能勢では少子化が深刻化し、小学校が統廃合に…。このままでは東郷地域は衰退し、伝統が絶ち切れてしまうかも知れないと、だから、みんなが元気になることをして、この地を盛上げ、恩返しがしたい。」と学校の改修工事を7歳で早めに見抜く、農水省

いう人にチャンスをあげて支援してあげる仕組みが出来る事。それが僕の一番望んでいることなんです。若い人が入つてきても失敗することが多い。それは支援が弱いからであつて、家庭菜園でなくて、なりわいとして農業するから、私も真剣に教えてあげないといけないと 思います。」と充郎さん。これからの活躍にも注目だ。

地域を元気に!
TOGO(東郷へ行こう)

目標！

栽培を依頼されたことから、小麦の栽培もされている。「小麦食べたことがある?お米に比べると収量は減りますが、無農薬で作った小麦ってホントうまいよ!」と充郎さん。

道」の整備をしたり、移住者に 対して「空き家ネットワーク」を運営し古民家物件と移住者 を繋げる取り組みやいくつか の団体で構成される「能勢なつかしさ推進協議会」(詳しくは、「TOGOVILLAGE」と 検索!)で農業をはじめとした 地域資源と観光の融合にも尽 力されている。